

NPO 法人朝日キャンプ 組織概要について

1 朝日キャンプの組織構造

朝日キャンプは、知的障がいや自閉症・ダウン症などの障がいのある児童または青年(以下、障がい児者)を対象に、キャンプを主とした野外活動を展開している NPO(特定非営利活動)法人の団体である。朝日キャンプの活動の前身は、朝日新聞厚生文化事業団(以下、事業団)の事業であったが、2003年の事業の終了を機に、活動主体であった学生ボランティアスタッフの OB・OG によって 2004年に設立された。前身の事業団の事業の時代を含め、約 50年の歴史をもつ団体である¹。団体の運営は、事務局という NPO 法人の理事ならびに監事である社会人ボランティアスタッフ(事業時に活動主体であった学生ボランティアスタッフの OB・OG)によって行われている。

朝日キャンプの構成は、大きく分けて 2つである。ひとつは、NPO 法人の理事ならびに監事である社会人ボランティアスタッフによって結成されている事務局である。そしてもうひとつは、キャンプの企画や運営、実施に取り組む学生ボランティアスタッフ、つまりキャンプリーダーである。以下、朝日キャンプにおける事務局とキャンプリーダーの役割について述べる。

I 事務局の役割

事務局の主な役割は団体運営である。図 1 は、朝日キャンプの組織構成について、朝日キャンプ事務局が図式化したものである。団体運営における事務局の具体的な役割は図 1 で表されている、「後方支援(組織運営)」と「現場統括(キャンプ運営)」にあたる。「後方支援(組織運営)」としての主な取り組みは、総会の実施や会計、事業報告や広報の作成などであり、これらの他に、障がい児者を対象とした活動参加者(キャンパー)の募集や活動実施場所および宿泊場所の確保、キャンプにおける交通手段の確保やキャンプリーダーのミーティングの場所²の確保、そしてホームページの管理などにも取り組んでいる。「現場統括(キャンプ運営)」としての主な取り組みは、キャンプディレクター(CD)として、朝日キャンプが主催する野外活動を、現場において総責任者として統括することである。また、野外活

動の現場においては、同行スタッフとして、野外活動の主体であるキャンプリーダーの取り組みを見守りながら、必要に応じて、現場においてキャンプリーダーの取り組みの支援を行う。さらに、朝日キャンプの事務局専門職が、キャンパーとのコミュニケーション方法についてキャンプリーダーに助言などを行うスーパーバイザー(SV)といった役割などを担い、同行スタッフとして野外活動に参加する際に、取りまとめを行う。

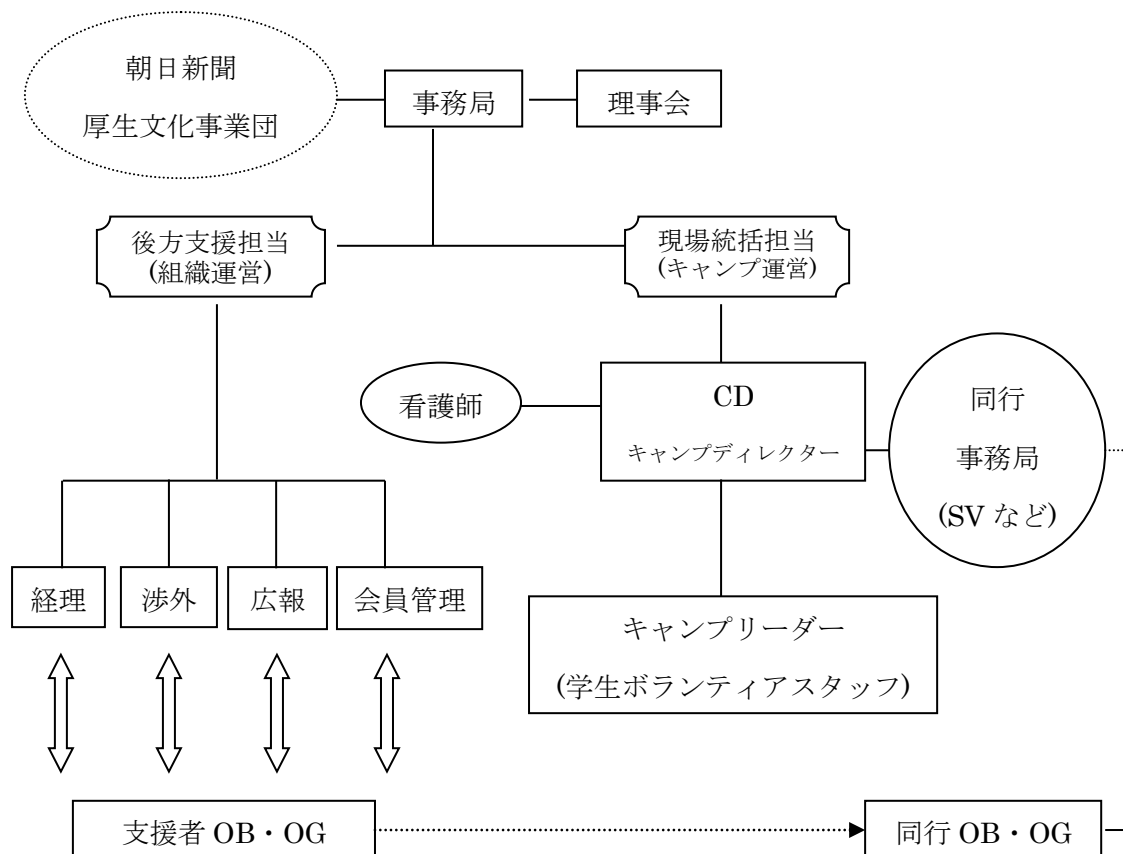


図1 朝日キャンプの組織図³

朝日キャンプでは事業使命⁴として、①キャンプ参加者の成長の場、②学生ボランティアスタッフの成長の場、③キャンプ参加者の保護者の休息(レスパイトケア)④社会人スタッフ及び学生スタッフの社会貢献の場を掲げている。そのため、朝日キャンプが展開する野外活動においては、②の学生ボランティアスタッフの成長の場、そして学生主体という意図のもと、キャンプリーダーが取り組む野外活動の企画や運営、実施内容については、基本的には介入せず、見守るという立場に徹している。そのため、事務局および同行 OB・OG は野外活動現場において、キャンプリーダーの取り組みに対して、必要に応じた支援としての介入のみとしている。

II キャンプリーダーの役割

朝日キャンプのキャンプリーダー(学生ボランティアスタッフ)は、関東首都圏内の大学・大学院・短大・専門学校に在学しているかつ、在住している18歳以上の学生である。朝日キャンプでは、キャンプリーダーの対象は上記の条件のもと、学生に限っている。現在のところ、学生であれば、4年間を上限として、キャンプリーダーとして活動できる。

表1 キャンプリーダーの年間活動スケジュール例

	主なスケジュール	リクルート活動	プロジェクト活動
1月	年間活動	活動計画作成	活動計画作成
2月		募集資料作成	活動割り振り・構成
3月	日帰りプログラム①*	募集資料調整・配布	
4月		募集・勧誘活動開始	ミーティングでの
5月	技術講習会*	募集・勧誘活動終了	技術講習会
6月	現地合宿*		
7月	キャンプ参加者懇談会*		障がい理解講習会
8月	現地合宿*、夏キャンプ*		
9月			
10月			
11月	日帰りプログラム②*		活動総括
12月	日帰りプログラム③*、年間総括	活動総括	

※：新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況によって変更あり。

キャンプリーダーの主な取り組みは、キャンプをはじめとした野外活動の企画や運営、実施である。具体的には、表1のような年間活動スケジュールに合わせて、毎月2、3回のミーティングを行い、そして野外活動を行う現地での合宿を積み重ねながら、朝日キャンプの主催する野外活動の主な活動である夏季キャンプの準備をする。夏季キャンプ実施後は、実施したキャンプについて、キャンパーの保護者の方に対して夏季キャンプの報告会を行う。また、実施したキャンプについては、ミーティングを通して振り返りを行い、振り返りから見出された活動の改善点は次年度の取り組みへと引き継ぎ、キャンプの質が高まるよう努めている。

この他にも、朝日キャンプでは、例年、4月から6月頃までの間に新たな学生ボランティアスタッフを募集するが、この募集活動を「リクルート活動」と表して、キャンプリーダーが企画や運営、実施し、活動を展開している。新人募集に必要な広報や資料などを作成し、首都圏内の大学などを回り、勧誘活動を行っている。さらに、障がい児者を対象とした野外活動を実施するために必要な知識や技術の習得も、「プロジェクト活動」と表して、キャンプリーダーが企画や運営、実施し、活動を展開している。キャンプリーダー間で役割を分担し、ミーティングや合宿の場で発表し合い、互いに切磋琢磨しながら身につけている。また、救命講習などキャンプリーダー間で身につけることが困難な専門的な知識や技術の習得は、朝日キャンプのOB・OGや専門家・専門機関に依頼して、障がい児者を対象とした野外活動を実施するために必要な知識や技術を習得できるよう努めている。

2 朝日キャンプの活動実施体制

2019年、朝日キャンプでは、障がい児者を対象とした野外活動として、日帰りプログラムとして都内の屋内施設でのレクリエーションプログラムもしくは首都圏近郊にて公園など屋外公共施設へ日帰りで行われるデイプログラムを、夏季(8月)に首都圏近郊のキャンプ場にて山キャンプ(3泊4日または2泊3日を3回)、そして秋季(10月)に秋季キャンプ(1泊2日)を開催した。

山キャンプは、例年、Aキャンプ・Bキャンプ・Cキャンプというキャンプ名で実施されている。例年、各キャンプの募集定員は、20～30名程度である。

しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により2020・2021年度は宿泊を伴うキャンプは中止した。感染状況に応じてプログラムの開催・中止の検討を行い、2021年度は、Web会議サービスのZoomを利用したオンラインプログラムを2回、参加人数を減らして飲食を伴わず、活動時間を短縮して都内屋内施設での日帰りプログラムを1回実施した。

I キャンプ活動におけるキャンプリーダーの役割

朝日キャンプでは、野外活動を実施するにあたって、キャンプリーダーをはじめとした活動に参加するスタッフには、それぞれに役割がある。以下、朝日キャンプが主催する夏季キャンプ活動の実施におけるキャンプリーダーの役割を項目ごとに分けて簡潔に説明する。

(1)プログラムディレクター(PD)

キャンプのプログラムを企画，実施し，そのキャンプの中心を担う役割である。

(2)ライフサポートマネージャー(LM)

キャンプのスケジュールおよびプログラムを実施するために FS(下記参照)をまとめ，キャンプを円滑に進行できるよう努める役割である。また，キャンプ中のキャンプリーダーやキャンパーの健康状態を把握し，キャンプ活動の実施における生活面での管理に努める役割でもある。

(3)キッチンキーパー(KK)

キャンプ中に使用する炊事場の管理を担う役割である。

(4)グループスタッフ(GS)

キャンプ参加者である障がい児者(キャンパー)とグループを構成し，寝食をともに過ごす役割である。基本的には，キャンパー4名に対して GS2名，キャンパー5名に対して GS3名でグループを構成する。

(5)グループチーフ(GC)

GSではあるが，グループのグループリーダーとしてグループをまとめる役割である。

(6)フリースタッフ(FS)

LMのもとに配置され，キャンプ中のスケジュールが円滑に進行するよう雑務を担う役割である。

以上，朝日キャンプが主催する夏季キャンプ活動の実施におけるキャンプリーダーの役割について説明した。上記のキャンプリーダーの役割において，(1)PD，(2)LM，(3)KK，(5)GCについては，キャンプリーダーと事務局が検討し，役割の担当を定めている。なお，朝日キャンプが主催する野外活動には，同行スタッフとして看護師の派遣を，朝日キャンプを支援している医療機関などに依頼しており，毎回の活動実施時には，必ず看護師が同行している。

II キャンプスケジュールにおけるプログラム

表 2 山キャンプの 3 泊 4 日の場合のスケジュール例

1 日目		2 日目		3 日目		4 日目	
9:30	集合(参加者)	7:00	朝のつどい	7:00	朝のつどい	7:00	朝のつどい
	出発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
10:00	バス移動	8:30	各班タイム	8:30	各班タイム	8:30	各班タイム
	トイレ休憩(2 回)		(昼食)		(昼食)		(昼食)
	バスレク		シャワー	14:00	マスプログラム	12:30	閉園式
	昼食						キャンプ場出発
	キャンプ場到着						
14:30	開園式	17:00	夕べのつどい	17:00	夕べのつどい		
	各班タイム	17:30	夕食	17:30	夕食		バス移動
17:00	夕べのつどい						バスレク
17:30	夕食	19:00	マスプログラム	19:00	マスプログラム		トイレ休憩(2 回)
	各班タイム						
20:00	就寝準備	20:00	就寝準備	20:00	就寝準備		
	就寝		就寝		就寝	17:00	到着
	FS・GSMT		FS・GSMT		FS・GSMT		解散

朝日キャンプでは、朝日キャンプが主催する各キャンプにおいて、主にそのキャンプの PD がそれぞれのキャンプのテーマやスケジュール、そしてプログラムを考案し、LM や キャンプリーダー、事務局とミーティングなどを通して決めていく。そして LM は、FS とともに、そのスケジュールやプログラムが円滑に進行できるよう、FS のスケジュールごとの配置や役割などを練る。また、GC および GS は、キャンプのテーマやスケジュールにあわせて、キャンパーとどのようにキャンプを過ごしていくか計画していく。

朝日キャンプの主催するキャンプにおけるプログラムについて、上記の表 2 のスケジュール例を用いて、項目ごとに分けて簡潔に説明しておくこととする。

(1)バスレク(バス内レクリエーション)

朝日キャンプが主催する夏季キャンプでは、キャンプ初日の集合場所から現地までおよびキャンプ最終日の現地から解散場所までの間は朝日キャンプのチャーターバスで移動する。この間、朝日キャンプでは、キャンプのPDやFSが中心となり、キャンパーを対象にキャンプの雰囲気を盛り上げるためにバスレク(バス内レクリエーション)を行う。バスレクの主な流れとしては、①自己紹介、②グループごとのネーム決めおよびグループネーム発表、③歌(キャンプソングと呼ばれている歌がある)、④ゲーム・手遊び、以上のようになっている。

(2)開園式・閉園式

キャンプ初日に現地のキャンプ場に到着した後、そしてキャンプ最終日に現地のキャンプ場を出発する前に、それぞれ開園式・閉園式と呼ばれる全体プログラムを行う。これは、急な場面転換への対応が苦手という朝日キャンプの活動対象のキャンパーに多くみられる特性を考慮しつつ、キャンプを盛り上げるために行うものである。キャンプのPDやFSを中心に行うのだが、主な流れとしては、①歌、②あいさつ、③PDが定めたキャンプのテーマソングを歌う、④PDが定めたキャンプのエール(かけ声)を行う、以上のようになっている。

(3)朝のつどい・夕べのつどい

キャンプの全日程を通して毎朝の朝食前そして毎晩の夕食前には、朝のつどい・夕べのつどいと呼ばれる全体プログラムを行う。これは、急な場面転換への対応が苦手という朝日キャンプの活動対象のキャンパーに多くみられる特性を考慮しつつ、キャンプを盛り上げるため、そしてこれからごはんを食べるというひとつの合図として行うものである。キャンプのPDやFSを中心に行うのだが、主な流れとしては、①歌、②あいさつ、③PDが定めたキャンプのテーマソングを歌う、④ゲームをする、⑤ごはんのメニューを発表する、⑥PDが定めたキャンプのエール(かけ声)を行う、以上のようになっている。

(4)各班タイム

名称のように、グループごとにGCおよびGSが事前に計画してきたプログラムを行う時間である。例年、各班タイムにグループごとに多く行われているプログラムとしては、山へのハイキングやおやつづくり、グループごとのシンボル(旗など)づくりや自然の物を使った記念品づくりなどが挙げられる。朝日キャンプの主催するキャンプのスケジュールにおいて、(1)から(3)そして(5)の時間以外は、基本的にはこの時間である。

(5) マスプログラム

キャンプのスケジュールにおいて、キャンプの PD がキャンプテーマに沿って考案した全体プログラムである。このプログラムは PD や FS を中心に行われ、主な取り組みとしては、プールや夜間ハイキング(ナイトハイク)、キャンプファイヤーなどが挙げられる。

(6) フリースタッフミーティング(FSMT)・グループスタッフミーティング(GSMT)

キャンプの 1 日のスケジュール終了後およびキャンパーの就寝後に行われる、キャンプリーダーのそれぞれの役割ごとの 1 日の振り返りの時間である。それぞれのミーティングにはキャンプリーダーの他に、同行している事務局や SV、そして看護師も参加する。FSMT は LM を中心に行われ、主な流れとしては、①点呼、②1 日のスケジュールの確認、③看護師より 1 日の振り返り、④1 日を振り返って FS 間で共有したいこと、⑤1 日を振り返って GS に伝えたいこと、⑥翌日のスケジュールおよび天候の確認、⑦PD および LM より 1 日の振り返り、⑧事務局より 1 日の振り返り、以上のようになっている。そして GSMT は PD を中心に行われ、主な流れとしては、①点呼、②1 日のスケジュールの確認、③看護師より 1 日の振り返り、④1 日を振り返って各グループの様子についての報告、⑤1 日を振り返って FS に伝えたいこと、⑥翌日のスケジュールおよび天候の確認、⑦PD および LM より 1 日の振り返り、⑧事務局より 1 日の振り返り、以上のようになっている。また、GSMT の間は、FS が各グループに配置され、キャンパーの見守りやトイレへの誘導などを行っている。これに加え、GS については、GSMT 終了後に、希望するグループに対しては、各班ミーティング(各班 MT)と呼ばれる、希望したグループの GS、PD、LM、SV、そして事務局でのミーティングが行われる。

以上、朝日キャンプの主催するキャンプにおけるプログラムについて説明したが、キャンプのスケジュールのどのプログラムにおいても、キャンパーに対しては参加を決して強制することはしない。それは、朝日キャンプのキャンプリーダーの活動理念の一部にある「キャンパーズファースト」という信念に基づき、キャンパーの視点に立ってキャンプを運営しているためである。朝日キャンプでは、キャンパーの趣味・趣向を大切にしているのである。

¹ 朝日新聞厚生文化事業団が編集・発行した『朝日新聞東京厚生文化事業団 50 年の歩み』(1986)によると、朝日新聞厚生文化事業団(旧朝日新聞東京厚生文化事業団)の児童を対象

とした事業は、1949年に海のレクリエーションとしてはじまった。翌年の1950年より夏山ハイキングなど山でのレクリエーションも行われ、1951年より山でのキャンプ活動が行われた。そして1958年より海における宿泊を伴う「臨海学園」事業がはじまった。当初は、東京都内の児童養護施設の児童を対象とした事業であったが、『朝日新聞東京厚生文化事業団 昭和38年度事業報告』によると、少なくとも1963年の時点ではすでに知的障がい児や身体障がい児(肢体不自由児、視覚障がい児、聴覚障がい児)を対象としたキャンプ活動が行われていた。そして1966年より、朝日キャンプの前身となる「朝日臨海福祉センター」(千葉県鋸南町)を拠点とした海におけるキャンプ活動がはじまった。当初は、児童養護施設の児童や母子家庭における児童、そして知的障がい児や身体障がい児を活動に招待していた。その後、キャンプへの参加募集対象を中学生・高校生と拡大し、健常児と障がい児の統合キャンプなどを行いつつ、1999年に「朝日臨海福祉センター」が閉館されるとともに、主な活動場所を現在の朝日キャンプの活動場所である群馬県片品村の武尊牧場キャンプ場に移し、山におけるキャンプ活動がはじまった。そして、2003年に朝日新聞厚生文化事業団の事業としての活動は終了し、現在に至る。

- 2 朝日キャンプは東京都新宿区四谷に事務局を設置しているが、現在、キャンプリーダーおよび事務局のミーティングについては、同区内にある「四谷ひろば」(旧四谷第四小学校跡地)や「新宿NPO協働推進センター」の一部屋などを主に利用して行っている。
- 3 朝日キャンプ事務局が作成したものに、一部、加筆・修正した。
- 4 参照：NPO法人朝日キャンプ ホームページ <http://www.asahicamp.org/>